

ボランティア活動報告書(3 号)

記入日	2014年04月09日
区分	一般隊員
氏名	大山 達也 (24-4)
派遣国	マラウイ
職種・指導科目	栄養士
派遣期間	2013年03月25日 ～ 2015年03月24日

報告書 3 号要約

マラウイに赴任して約1年が過ぎ、活動も日常生活も慣れてきた。しかし、日本社会とは違い、物事が上手く進まなかったり突然の変更を迫られることもあり、海外ボランティアの難しさも感じている。私の活動は新しいことの提案よりは本人たちが何をしたいか、何を望んでいるかということを引き出し、サポートしていくという方法をとっている。なるべくマラウイのスタイルに沿って活動しようと心がけているが、どうしても改善の必要性を感じる時はよく話し合いのうえ実行するかどうか決定している。

以下、第3号報告書の記載項目である。

1、活動の進捗状況

第2号報告書に添付した活動計画表の現在の進捗状況と変更点、新たな活動計画について説明する。

2、着任後1年時点の活動結果と課題及び課題に対する解決案

5S-KAIZENによる院内、スタッフの意識改善について説明する。

3、活動支援制度活用計画

現地業務費を使い、治療食の提供を試みた。その経緯と現状、今後の課題について説明する。

4、社会的格差に関する所見

主に女性のが受ける教育の格差について説明する。

5、受入国の生活習慣

大部分の人が信仰するキリスト教の習慣について説明する。

1. 活動の進捗状況

2代目の栄養士として現在の病院に配属されたが、前任者のときとは状況が変わり引き継いだ活動も継続が難しくなった。主な原因として考えられるのは人事異動と予算の削減だ。以下、院内・院外に分けて活動を説明する。

【院内】

粉末モリンガを用いて患者に治療食として提供している。以前から治療食は存在したが、

予算削減による食材不足から献立を変更しての提供となった。また、その他ナチュラルハーブの効能や使い方をわかりやすく解説した資料を英語、現地語で作成中。新しく加わることとなったNCST(Nutritin Care Support Treatment)プログラムの中で、低栄養の患者を対象に指導媒体として使っていく予定。5S-KAIZENはカウンターパートがとても協力的で、現在は私のサポートなしでも少しずつではあるが改善してきている。

【院外】

月に1度はアウトリーチクリニックに同行し、栄養啓発活動をしている。また、教育省のスタッフと連携し学校の先生を対象として、栄養啓発、ナチュラルハーブの講義を行っている。将来的に先生たちが自分の担当する学校で栄養啓発をしてくれることを目的としている。

2. 着任後1年時点の活動結果と課題及び課題に対する解決案

現時点での活動結果を示すことは難しいと感じている。私が提案し、スタッフの協力を得て行っている活動も、公務等で私が不在の時に誰も行わなかったり、言われないとやらないなど継続性に欠けることが多い。改善すべき大きな課題はスタッフのモチベーションの維持ではないかと考えている。スタッフのモチベーションを維持し、継続して活動をすることができれば問題は改善できると思う。しかし、私の提案に協力し、自分の仕事が増えても給料が増えることがないので、モチベーションが維持できないというのが現状である。お金以外のもの、具体的には経験などをモチベーションに変えられるようなアプローチをして、任期終了後も継続できる活動を目指していく。

3. 現地支援制度活用計画

現地業務費（一般業務費）を申請し、患者に対して治療食を提供する目的で調理器具を購入した。前任者の頃から治療食は存在していたが、病院の予算削減に伴い既存の治療食を提供するための食材確保が困難になった。そこで今回は献立を改め、調理器具を購入し、スタッフの負担も軽減して治療食を提供できるようにした（添付資料 参照）。日本の治療食と比べるととても劣るものであるが、まずはマラウイの病院で他の患者とは違うものを提供してみるという段階にもっていきたい。

実際に提供を開始すると、病棟とキッチンとの連携がなかなか上手くいかず、治療食を提供できない日があるのが現状である。しかしながら、私が不在の時も提供できているときがあるのでもう少しサポートしながら見守っていく。最終的には病棟との連携のもと彼らだけで提供し、記録も付けられるようになることを期待している。

4. 社会的格差に関する所見

マラウイは世界的にも貧しい国として位置付けされているが、その原因として考えられるもののひとつに教育があると思う。お金のない家庭の子供は無料である小学校までしか通えず、卒業後の仕事も限られてくる。中等高等学校に進めても卒業までに様々な理由で脱落し、教育を受ける機会が失われている。特に女儿の場合は深刻な問題を抱えていると言わざるを得ない。マラウイでは男性優位な社会が色濃く残っているため、家庭の中で男児が優先されて学校へ通うことができる。家計に余裕があって、女儿が学校へ通うことができても、妊娠や結婚を理由に退学する者が多いように見受けられる。一度、女性が家庭に入

ると旦那の収入で養ってもらうのが普通である。十分な教育を受けていない女性は仕事を得ることができず、庭先で野菜や軽食を売って家計を支えるのが限界だ。

しかし、女性は強い。子供を背負ったまま畑仕事をこなし、重たい水も一日何度も運ぶ。そういう女性の姿を見て、男性は何を思うのだろうか。少しでも男性が女性に歩み寄る気持ちがあれば世の中は変わっていくのかもしれない。もちろんマラウイに限ったことではないが。

5. 受入国の生活習慣

マラウイは大部分の人がキリスト教を信仰しており、毎週日曜日はお祈りのため教会へと足を運ぶ。そこでお説教を受けたり、みんなで歌を歌うなど教会や宗派によって様々な特徴がある。お説教の他にも生活の知恵を紹介していることもあり「中国製品は壊れやすいので日本製を使うようにしましょう。」ということもある。が、日本製を模した中国製も多々あるため、本物を手にするのは難しいことだ。また、日曜日のお祈りは【出会いの場】であることも多く、マラウイでは男女が教会で出会い、結婚したという話もよく聞く。そのためか教会へ通うときはみんな普段よりもお洒落な格好をしていくことが多い。教会は道徳を学ぶ場であると同時に、出会いや娯楽の場という多様な空間である。日本にはないこの習慣はとても新鮮で、私自身はキリスト教徒ではないが、たまに教会へ行くようにしている。